

学園だより

社会福祉法人 至誠学園立川
至誠学園

平成21年11月15日

〒190-0022 東京都立川市錦町6-26-15

TEL 042-524-2601 FAX 042-524-2367

<http://www.shiseigakuen.org/> Email: info@shisei.org

発行 児童事業部 広報委員会

至誠大地の家 開設



(上)
10/28に行われた新
施設「至誠大地の家」
落成式での記念写真
(左)
南側からの外観
(右)
ワークルーム内から
デッキを眺める

プロジェクトの経緯 理事長

先代が逝去し、私が学園の経営を委譲されたのは28歳のときでした。甲州街道隣接地(250坪)を、至誠学園の資金繰りのために売却し、いつかはこの土地を買い戻そうと努力しておりましたところ、競売に出されたとの情報が入りました。三田鶴吉後援会長の「買い戻そう」という一言に背中を押され、理事会での協議の結果、金融機関から20年の長期融資(1億8千万円)を受け、買い取ることができました。この土地を基本財産として、有効活用するための検討として立ち上げたのがセンチュリープロジェクトでした。

児童虐待防止法施行後、重篤な課題を抱える児童の入所増加にともなう児童福祉の増進に寄与したいと考え、21世紀の社会的養護を模索するため、法人創設100周年を迎えるこの時期に立ち上げたこのプロジェクトが、「至誠大地の家」の開設につながりました。

このプロジェクトは、国、東京都、並びに立川市、各助成団体、企業の方々、多くの個人の方々などの資金のご援助と物品のご寄贈など、多大なご協力をいただき、実現することができました。皆様の中には子ども達一人ひとりの未来を見据え、その子ども達が成長し、未来を担う姿のイメージがあると思います。このたびの多くの方々のご協力に心より感謝を申し上げます。皆様とともに未来に向かって、子どもとその家族の幸せづくりが実現するように力を入れていきたいと思っております。

「至誠大地の家」 - 新しい社会的養護へ向けて

施設長 高橋誠一郎

このたび、至誠大地の家の施設長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願ひいたします。0歳児からの養育や家族支援、地域へのプログラムといった新しい取り組みを実現することと、開設に向けてご支援をいただいた多くの方々の熱い想いを実現するということに、この施設の責任者として、大変な重責を感じております。

子どもたちとご家族にとってこの施設での生活が一生の財産になるよう家族の視点に立ち、そして職員の皆さんにとっても働きやすく温く心の通った施設づくりを目指してまいります。

この産声をあげたばかりの至誠大地の家の成長をお見守りください。そしてご指導ご鞭撻をいただけますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。



(写真上) 落成式式典にてご挨拶する施設長と理事長
(写真右) 落成記念植樹
(写真下二枚) 至誠大地の家の夜景外観



建設事業の経過

- 2004.4 プロジェクト設置
- 2008.4 株式会社竹中工務店一級建築事務所と設計契約
- 2008.10.24 工事業者選定入札(株式会社ナカノフドー建設落札)、契約
- 2008.11.1 着工
- 2008.11.11 地鎮祭
- 2008.12.5 職員宿舎(旧まことくらぶ・レジデンス柿の木)解体
- 2009.6.23 「至誠大地の家」理事長 命名
- 2009.7.19 アートワーク(竹中先生ご指導により子どもたちと壁面へペイント)
- 2009.8.17 東京都保健福祉局建物検査
- 2009.8.20 竣工引渡、太陽光発電、OMソーラー設備工事(砂川建設株式会社)着工
- 2009.9.17 至誠大地の家施設認可
- 2009.9.28 至誠大地の家落成式典
- 2009.10.1 至誠大地の家開設、太陽光発電、OMソーラー設備工事完成



「大地の家」設計について

竹中工務店 常務取締役 堀川冽様 経緯

当プロジェクトの設計監理をお引受けした経緯ですが、高橋理事長と当社の元副社長石川史郎氏とは学生時代からの友人であり、ここ至誠学園において共に児童福祉活動に尽力して居たと聞いています。また、石川氏は至誠学園の後援会副会長を勤めて居られました。今回の第二至誠学園の建設に当っては、高橋理事長と石川氏の絆を形に残し、至誠学舎の第二世紀に思いを繋げる為に設計事務所として基本計画からご支援させて頂きました。

「入居する児童が主体」

設計のテーマは多様でしたが、何よりも理事長が述べられた、「入居する児童が主体である」を第一に設計を展開しています。

1. 配置計画：四階建の「しゃらの木プラザ」で敷地と甲州街道とを区画し、道路側から地域交流・職員育成・「レジデンス柿の木」を順に並べ、「大地のデッキ」が夫々の施設を結び付けると共に、「大地のデッキ」に立つと道路で分断された市街地と多摩丘陵の連続性が見渡すことができます。

2. 環境への取組：自然エネルギーの利用(太陽熱温水器・OMソーラー床暖房:omosiroi mottainai・太陽電池)、再生品の利用(解体建物の扉・家具・金属パネル等)
3. 児童主体の設計：室内の見通し、指詰め防止・コンセント高さ等の安全配慮、子供のアートワーク採用、子供目線の開口部、子供の手触り・肌触りを考慮した意匠・材料の選定など、多岐に渡っています。

工事の経過とプロセス

昨年の11月11日に地鎮祭を行い、約10ヶ月の工期でした。外部は交通繁華な甲州街道に面し、内部はすぐ横を子供たちが走り回る、外部工事の期間は雨が多かったなど、困難な工事環境でしたが、施工を担当されたナカノフドー建設さん、砂川建設さんには、建築主のご要望に応じて質の高い施工を行い、全工期無事故無災害で約束の工期内に所定の品質の建築を見事に完成されました。工事を担当された皆様のご尽力に敬意を表しますと共に、当社設計部と良く連携をとって工事を進めて頂いた事に感謝申し上げます。

< 竹中工務店常務取締役 堀川冽様 ご挨拶より抜粋 >

至誠大地の家 施設概要

- 定員
30名<現在:児童10人>
0歳からおおむね9歳まで
- 職員数
28名(常勤・非常勤)
栄養士、心理療法担当、看護師、嘱託医を含む
- 所在地
〒190-0022 東京都立川市錦町6-26-17
電話番号 042-540-0088
FAX 042-524-2580



施設のコンセプト

0歳からの養護
一貫性を持って養育すること、きょうだいと同じ施設で生活できることが児童福祉法の改正により実現できました。

生活の中の心理ケア
入所児童親子の宿泊訓練を家族支援室を使って行い、早期家庭復帰を促進します。

モンテッソーリ教育理論の導入
子ども自身に本来備わる成長する力を尊重し、日常生活で年齢に応じた経験ができる環境を提供します。

ファミリーコーディネート機能
心理療法担当職員や家庭支援専門相談員などの専門的アプローチによる様々な支援ができます。

地域交流プログラム
地域の子育て家庭への虐待防止に貢献します。

人材養成
職員の養育技能を高めることで、精神的ゆとりを持って対応できます。

プロジェクトにかかわる費用

- 隣接建設用地(法人敷地)の購入費 148,963,000円
資金内訳として寄附金135,000,000円、法人自己資金13,963,000円
- 総工費 570,540,000円、うち備品は20,000,000円<資金内訳>
建設補助金として国・都・立川市から186,968,000円
備品補助金として国・都から3,000,000円、自己資金400,572,000円になります。自己資金の内訳は、建設借入金119,800,000円、備品共同募金会8,000,000円、寄附金42,000,000円、法人自己資金230,772,000円

多くの皆様のご協力に感謝いたします。

至誠大地の家開設記念 村瀬嘉代子先生講演会



11月5日、大正大学教授村瀬嘉代子先生に「子ども達と私たちが生活するということ」をテーマとしてお話をいただきました。至誠学園、新しい「至誠大地の家」の職員とともに学ぶことができました。

職員の感想より抜粋

- 人とのつながりは一方通行ではない。自分振り返る機会に。
- 何気ない日常のいとなみの中で人は変化する、それをつくることが大事な仕事である。
- 10月からスタートで、戸惑うことが多いですが、心を大切にしたい職員になりたい。
- 家族、愛情、心とは?と自問自答しながら聞きました。
- すぐに伝わらなくてもいつか通じる日がくることを信じてかかわりたい。
- 自分では?と振り返ったとき、食べたもの、家族で食卓を囲んだこと、学校や友だちとのつきあい…。

秋 子どもたちの生活から



(写真左上)

10/25 東京立川ライオンズクラブさんと運動会

(右上)

11/8 施設文化祭にて 洋舞 本番に強い子ども達 審査員の講評「日常生活を印象化し、踊りで具現化しており、楽しんでいる様子がわかります」

(左下)

11/14 七五三 あいにくの雨でした。諏訪神社にて

(右下)

11/15 6プロサッカー大会で見事に優勝！
子ども達の練習とがんばりに拍手です



秋の陽を浴びて学園の庭ではミカンや柿など果実がみのり、周辺の木々は赤や黄色に色づきました。至誠大地の家が10月1日に開設され、幼い子ども達が入園してきました。乳児から幼児の子ども達は興味津々で歩き回り目が離せません。

学園の小学生の女の子たちは、ロープを使った電車ごっこなどして、おねえさんぶって遊んでくれています。ほほえましい情景です。 <高橋利一>

ワークセンターまことらぶ から

一就労継続就労支援 B 型のサービス提供事業として一
会員お一人お一人と利用契約を交わし、会員と保護者と
確認した個別支援計画に従って支援を進めることになりました。
このサービス提供に対して会員より利用料をいただくとい
うものです。現在はおおむね毎月 1,500 円程度です。

今までにも増して、お一人お一人に目を向けた支援を大
切にしていくことを改めてスタッフ一同確認しました。
(施設長)

今後の主な予定

第 6 回セミナー「こどもたちの未来を考える」開催

11月26日午後6時より立川市民会館小ホールにて行います。

第1部は子ども達と職員による歌、第2部は諏訪の森保育園和田上園長、職員研修でお世話になっている法政大学の小野先生、皆川先生、高橋学園長によるパネルディスカッションです。

■11/21 児童虐待防止パレード
■12/2 立川児童相談所定期協議会
■12/5 東京ディズニーランドご招待
■12/13 ホリディーパーティー
■12/19 モッテッソーリ立川子どもの家クリスマス会
■12/24 至誠学園クリスマス会

11月26日午後6時より立川市民会館小ホールにて行います。

第1部は子ども達と職員による歌、第2部は諏訪の森保育園和田上園長、職員研修でお世話になっている法政大学の小野先生、皆川先生、高橋学園長によるパネルディスカッションです。

どうぞ皆様お誘い合わせのうえ、お越し下さい。

- 11/21 児童虐待防止パレード
- 12/2 立川児童相談所定期協議会
- 12/5 東京ディズニーランドご招待
- 12/13 ホリディーパーティー
- 12/19 モッテッソーリ立川子どもの家クリスマス会
- 12/24 至誠学園クリスマス会

その他にも各種クリスマスパーティーご招待など、今年もたくさんの方のご好意に感謝申し上げます。

11月29日 ウィンターバザー開催

児童事業本部主催で学園、大地の家、まことらぶが年末年始の生活資金つくりとして実施します。今年はサンデーマーケット方式で実施します。

至誠学園バザー
平成21年11月29日(Sun) 10:00~14:00

物品の販売、食料品、日用品、衣類、・雑貨店、指引き等あります！
物品のご提供、当日の来園を心よりお待ちしております！
※なお実務状況から中古衣料、電化製品、家具のご提供はお断りさせていただきます

お問い合わせは、至誠学園バザー実行委員会まで
東京都立川市錦町 6-26-15
tel:042-524-2001 fax:042-524-2367
e-mail: info@shisei.org

田中万里子先生講演会

今年もテレビ朝日福祉文化事業団と至誠学園との共催で児童福祉施設職員を対象としたワークショップを実施しました。至誠学園、至誠大地の家の職員も参加し学びました。さらに今年は講演会を日本児童福祉実践学会の主催でザ・クレストホテル立川にて行い、保育園職員、児童養護施設職員など参加しました。「様々な課題を抱える子どもたちに寄り添い、子どもを援助していくうえで必要なコミュニケーションについて」という田中万里子先生のお話に、参加者 100 名は熱心にメモを取りながら聞き入っていました。



学園長 福祉の心を語る

去る6月19日立川市第1中学校にて、2年生を対象に「こどもと福祉」というテーマで学園長が講演しました。<中学生から送られてきました感想文から抜粋>

- 今日お話をきいて、親のぎゃくたいや親とすめない子がたくさんいることがわかりました。
- 児童福祉ソーシャルワーカーという存在も初めて知りました。こんな仕事は魅力的だと思います。
- 「しせつ」ということばからは、今までとてもよい印象に思えなかったです。でも今日の話を知ったら、そうなのはふさわしくないというのがわかりました。
- 僕は今まで福祉を知らなかった(中略)でも今日の話を知って子どもを守ってくれる制度があつてとても安心しました。

学園長 近況

法政大学定年退職後、日々の学園生活は変わりありませんが、法政大学名誉教授として各地で研修会、講演会の講師、審議会、委員会、協議会のメンバーとして忙しく過ごしております。特に小中学校で話を求められた場合は喜んで参ります。

「至誠大地の家」落成後は今後の借入金返済、あらたな子ども達の自立支援など、まだまだ夢を追いかけたいです。晩秋の早朝、毎日子ども達とラジオ体操をして、指導員であった若き時代を思い出し重ねております。

この10月、地域の長年の保護司活動に対して法務大臣表彰を受けました。

編集後記： 子ども達の間でもインフルエンザが流行っています。それにもめげず、6プロのサッカー大会ではみごと優勝することができました。元気な子ども達、入所して新しい環境に少しずつ慣れてきた子ども達、それぞれに合わせて職員も対応できるように、充実した職員研修で研鑽しています。どうぞ皆様も寒くなりますのでご自愛下さい。 <広報委員会一同>